地域の防災拠点 田野浦避難集会所完成

避難所としての機能を兼ね備えた田野浦避難集会所の落成式が5月21日(日)に行われました。

同施設は120人程度を収容できる部屋を構え、調理室や障がい者用トイレを設置しています。また、町内初となる自家発電機を備え、災害で停電した際にも電気が使用できるようになっています。

田野浦地区はこれまで、昭和54年に建設された集会所を地区の会合や催しなどに利用してきました。しかしながら、東日本大震災や新たな被害想定の発表を受け、津波浸水区域にある「地域の拠点」を津波災害時にも活用できるよう高台への移転を計画し、整備を推進してきました。

野並誠路区長は、「浸水区域を抱える田野浦にとって、心の拠り所ができた。三浦小学校と避難集会所の2カ所を拠点とし、災害に負けない地区にしていきたい」と今後の活用に期待を膨らませました。

完成を祝う関係者ら

佐賀保育所園児らがアユ放流

不破原地区の伊与木川で6月1日(木)、「佐賀の伊与木川を守る会」が主催する稚アユの放流に佐賀保育所園児らが参加しました。

今年で5回目となる稚アユの放流に佐賀保育所の4・5歳児30人が参加し、体長15センチ程度の稚アユ約2000匹を川へ放流しました。

園児たちは、渡されたアユの入ったバケツを慎重に川まで運び、「大きく育ってね」と声をかけながら放流し、元気に泳いでいく稚アユを見守っていました。

地元住民76人で活動する佐賀の伊与木川を守る会の明神照男会長は、「子どもたちが川や自然を大切にする気持ちを持ってもらえたり、大人も、自然の中で人間も生きていること、人間も自然の一部であると思い出すきっかけになれば、今までの活動も価値がある」と話していました。

大きく育ってと声を掛ける園児たち

さが谷三里マーケット開設 地域住民交流の場へ

毎月第2・4日曜日に土佐佐賀温泉こぶしのさとで開催されていた「さが谷三里マーケット」が6月2日(金)、集落活動センター佐賀北部施設内に開設され、初日は多くの買い物客で賑わいました。

温泉施設の駐車場で行われていたマーケットは、今後は同センター内の直販所で地場産の野菜や果物、惣菜などを販売していくとのこと。オープン初日には、地域住民や隣接するあったかふれあいセンターの利用者らが訪れ、佐賀北部活性化推進協議会食部会の女性陣が作った惣菜や、鈴漁港で獲れた新鮮なサバ、地場産の野菜などが並び、それぞれが商品を手に取りながら買い物を楽しみました。

同協議会会長の大石正幸さんは、「地域の人たちの交流の場になれば嬉しい」と直販所の役割に期待を表しました。

笑顔で交流をしながら買い物

地元で採れた新鮮な野菜

入野城跡発掘調査報告会

入野城跡発掘調査報告会が6月18日(日)、大方あかつき館で行われました。

入野城跡は、入野小学校西隣に位置し、15世紀前半～16世紀にかけて入野一帯を支配した入野氏の城跡です。

平成28年10月～29年3月にかけてシルバー人材センターから派遣された作業員など総勢500人で約4000㎡を発掘した調査の報告を聞きに、当日は約30人が来場しました。

今回の発掘では、青磁をはじめ風炉の欠片が多く発掘され、館内では6月12日(月)～28日(水)まで約200点の出土品が展示されました。

調査を担当した山本哲也さん(62)は「入野、そして黒潮町の発展の土台を作った入野氏の史跡を若い世代へ受け継いでいけると思う。茶の湯を楽しみ、中国と交易があった豊かな歴史を残された物から感じていただけたら。」と話していました。

遺跡調査員の山本さん(右)
説明を受ける来場者(左)

発掘された沢山の風炉の一部